

筑海颯氣連天黒
蒙古來 來自北
嚇得趙家老寡婦
相模太郎膽如甕
蒙古來 吾不怖
直前斫敵不許顧
擒虜將 吾軍喊
不使羶血盡膏日本刀
蔽海而來者何賊
東西次第期吞食
持此來擬男兒國
防海將士人各力
吾怖關東令如山
倒吾檣 登虜艦
可恨東風一驅附大濤

蒙古來 (頼 山陽)

筑海の 颯氣 天に 連つて 黒し
海を 蔽うて 来る 者は 何の 賊ぞ
蒙古 来る 北より 来る
東西 次第に 吞食を 期す
趙家の 老寡婦を 嚇し 得て
此を 持して 来り 擬す 男兒の 国
相模太郎 胆 甕の 如し
防海の 将士 人 各 力む
蒙古 来る 吾は 怖れず
吾は 怖る 関東の 令山の 如きを
直ちに 前み 敵を 斫つて
顧みるを 許さず
吾が 檣を 倒し 虜艦に 登り
虜將を 擒にして 吾が 軍 喊す
恨むべし 東風 一駆 大濤に 付し
羶血をして 尽く 日本刀に
膏らしめ ざりしを

解説 弘安四年の夏、元の襲来に対して結束、元軍を退けたことを詠じたもの。

語釈 ※筑海 福岡県の湾。※颯氣 つむじ風。※連天 天までとどく。※蔽海 海を覆うばかり。※賊 元軍。※期吞食 侵略すること。

※嚇得 脅かす。※趙家 宋朝をさす。※老寡婦 老いた夫のない独身の女性を意味する。楊太后。※来擬 強制して乗っ取る。※男兒国 日本を指す。※相模太郎 時宗の通称。※胆如甕 胆が甕のように大きい。※防海將士 北条実政以下、果敢な武士。※関東令 鎌倉幕府の絶対の命令。※直前 一直線に突き進む。

※不許顧 振り返らず前進のみ。※檣 マスト。※虜艦 蒙古の戦艦。※喊 雄叫び。※可恨 残念の意。※一駆 敵を駆逐する。※大濤 大波。※羶血 元軍の血。※膏 敵を斬ること。

通釈 博多の湾は天に連なって黒く、つむじ風が巻き起こり、不吉であった。やがて海を覆うばかりの船団の襲来だ。何処の国からの敵ぞ。それは、元軍であった。元の国王・忽必烈は世界征覇を抱いて、東西の国々を手中に収め、宋の幼帝とその母を脅かして位を奪い、余勢を馳り、日本をも襲つて来た。だが、日本は武勇の国であり、婦女子の国ではない。遜え討つは甕のような胆力を持つ北条時宗。元軍といえども恐れるものではない。北条実政、そして、強者の将士。剛強の元軍が攻め来たつたと雖も怯まない。それより畏れるのは、鎌倉からの軍令で前進あるのみとの命令である。したがって、いかなる事変に遭遇するとも、瞬時後方を振り返ることは許されない。果敢な武士達は、大艦の帆柱を倒してよじ登り、敵將を生捕り、面目を發揮した。勝利を確信し、わが軍の中から勝どきが上がった。ただ残念なのは、東風が大波をおこし蒙古の戦艦を覆没させた為、わが日本刀で蒙古軍の血を飛ばし斬殺することが出来なかつたことである。